



パック連通信

事務局：山梨県大月市御太刀 1-2-10

No.128 2024年4月20日発行
全国牛乳パックの
再利用を考える連絡会

TEL 0554-22-3611

牛乳パック再利用運動 40年

もの大切さを子どもたちに伝えようと、山梨県大月市の自主グループ「たんぼぼ」が牛乳パック再利用運動を始めたのが、40年前の1984年。

当時は、回収ルートもなく禁忌品扱いだった牛乳パックが、再利用運動として全国に広がり、各地の市民グループなどの協力で回収されましたが、家庭紙に再生される仕組みが築かれるまで数年かかりました。

現在では当たり前前の光景として、スーパーの店頭回収のほか、容器法に基づいて自治体でも回収されていますが、社会状況の変化とともに牛乳パック再利用運動の理念が忘れ去られようとしています。

改めて当時を振り返り、この運動の意義を見つめ直したいと思います。

1984年

年月 日 曜日 祝日
1984年(昭和59年)11月13日 火曜日



牛乳空きパックを再利用しよう。大月市の環境グループが中心となり、児童・保護者を結ぶ「たんぼぼ」が、資源の大切さを伝える活動の一環として、スーパーに回収してもらう活動を開始した。回収されたパックは、家庭紙に再生される仕組みが築かれるまで数年かかりました。

牛乳の空きパック再利用

大月のママさんたち

美化を兼ね資源再生

スーパーが回収に協力 収益は福祉などに

牛乳パックの回収運動は、大月市で始まりました。たんぼぼのママさんたちが中心となり、児童・保護者を結ぶ「たんぼぼ」が、資源の大切さを伝える活動の一環として、スーパーに回収してもらう活動を開始した。回収されたパックは、家庭紙に再生される仕組みが築かれるまで数年かかりました。

たんぼぼのママさんたちは、牛乳パックの回収運動を通じて、環境美化と資源再生の両方を兼ねて活動しています。回収されたパックは、家庭紙に再生される仕組みが築かれるまで数年かかりました。

牛乳の空きパックを始末する園児たち。大月市の猿橋幼稚園で



資源再生大きな反響

大月・「たんぼぼ」の牛乳パック回収
猿橋幼稚園児らも協力

大月市の環境グループ「たんぼぼ」が、牛乳パックの回収運動を通じて、資源再生の大きな反響を呼び起こしました。猿橋幼稚園の園児たちも協力し、回収されたパックは、家庭紙に再生される仕組みが築かれるまで数年かかりました。

山梨日日新 昭和59年(1984年)11月19日 月曜日



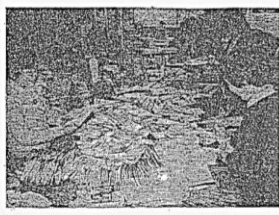
牛乳空きパックの回収運動に協力を

大月の主婦が呼びかけ

大月市の主婦の自主グループ「たんぼぼ」が、牛乳パックの回収運動を通じて、環境美化と資源再生の両方を兼ねて活動しています。回収されたパックは、家庭紙に再生される仕組みが築かれるまで数年かかりました。

回収して活動資金に 「物の大切さ」も教える

牛乳の紙パックは
貴重な再利用資源



たんぼぼのママさんたちは、牛乳パックの回収運動を通じて、環境美化と資源再生の両方を兼ねて活動しています。回収されたパックは、家庭紙に再生される仕組みが築かれるまで数年かかりました。

山梨日日新 1984年(昭和59年)11月22日(木曜日)

牛乳パックの回収のきっかけは「捨てたらもったいない」

自主グループたんぼぼは、大月市で地域ぐるみで子育てと生き方を考える目的で活動をしていたお母さんたち7人で発足されました。(主宰；平井初美)

子どもたちの体験不足が、問題行動の一因になっているのでは？と、地域の小中学校の協力で、家でのお手伝い実態アンケート調査を行ったり、講演会や自主学习を積み重ねて「教育は共育、育児は育自」という結論を導き、「体験を伝え合う子育てのつどい」「世代を超えて語り合う会」などを企画したりしていました。

たんぼぼの活動の応援者の中に、ホームセンターを経営する社長さんがいて、過去に木材会社を営んでいたこともあってか、ある時「牛乳パックはすごくいい紙でできているんだよ、あれを捨てたらもったいない。」と教えてくださいました。

当時、大量生産、大量消費がもてはやされる飽食の時代を迎えていて、物は豊かになっても子どもたちの心が貧しくなっていることを懸念していたたんぼぼのお母さんたちは、「飲み終えたら捨ててしまうワンウェイ容器の牛乳パックを回収して、ものを大切に作る大人の姿を示そう」と回収活動を始めました。

「牛乳パックを捨てたらもったいない」と教えてくださったホームセンターの社長さんは、この活動を応援しようと1枚5円で引き取ってくださり、その収益金は国内外の義援活動へも寄附しました。

こうした活動が、メディアに取り上げられると大きな反響を呼び、1日何十件も問い合わせをいただき、牛乳パック再利用運動は各地に飛び火しました。ところが、1枚5円という法外な引き取り価格の情報が独り歩きし、専門の回収事業者から「5円で引き取ってくれるルートはどこですか？」という問い合わせも入りました。「はて、ルートとは？」リサイクルの仕組みを何も把握していなかった、たんぼぼの平井主宰は、牛乳パックを回収したその先はどうなるのか調べ始めました。

真っ先に引き取り先のホームセンターの社長さんに問い合わせると「その先はまだ何も決まっていない、とにかく集めたら何とかなるんじゃないか。」という回答。このままでは、ホームセンターの社長に迷惑をかけることになる、平井主宰はあちこちの関係機関に問い合わせの電話を入れ続けました。(ある月には電話代が8万円になったことも。)さらに衝撃を受けたのが、問い合わせ先の一つ財団法人古紙再生促進センターの「牛乳パックは禁忌品で、リサイクルルートはありません。リサイクルできないものです。」という回答で、ただただ愕然としました。

「これは大変だ！リサイクルできないものを集めてしまった。」しかし「これまで集めた牛乳パックは、大月の皆さんの善意であり、これをごみにすることはできない。」と独自で牛乳パックの引き取り先を探し続けました。

(次号につづく)



たんぼぼ発足当時の7人、勉強会の様子



山梨放送「やまなしレトロモダン」
2024年4月2日 22:54からの4分間
番組に取り上げられました。

